

長野県内市町村の生物多様性保全の現状認識

畑中健一郎¹・陸 齊¹・須賀 丈¹・竹内玉来²

1 はじめに

生物多様性の保全とその持続的な利用は、住民の生活・生産環境の保全をはじめ観光振興等地方公共団体のさまざまな施策にも深く関係している。2008年に成立した生物多様性基本法では、都道府県及び市町村は、生物多様性国家戦略を基本として、区域内における生物の多様性の保全及び持続可能な利用に関する基本的な計画（生物多様性地域戦略）を定めるよう努めなければならないとされており、長野県でも2012年に「生物多様性ながの県戦略」¹⁾（以下、県戦略という）を策定し、以後これに基づいて各種施策を推進してきた。

この県戦略の目標達成年次は、「生物多様性国家戦略2010」²⁾に倣って中長期目標を2050年とし、中長期目標の実現に向けて2020年までに実施すべき具体的施策を短期目標として掲げている。このため、2020年度には、短期目標の達成状況を評価し、新たな目標を設定するため、県戦略の見直しが予定されている。

環境省³⁾によると、全国で生物多様性地域戦略を策定している地方公共団体は、都道府県で91%、政令指定都市で90%である一方、その他の市区町村ではわずか4%でしかない。また、長野県が実施したアンケート調査⁴⁾によると、生物多様性の「言葉の意味を知っている」と答えた者の割合は33.1%であり、生物多様性の概念が広く理解されている状況にはなっていない。

県戦略の見直しにあたっては、生物多様性を県民に浸透させることを重視する必要がある。そのためには、市町村における生物多様性保全への取り組みを把握し、より効果的な対策の検討に繋げる必要がある。そこで、長野県内市町村を対象に生物多様性の保全に関するアンケートを実施したので、その結果を報告する。

2 調査方法

アンケートは、2019年10月から11月にかけて実施した。調査内容は、生物多様性の現状等に対する認識、生物多様性保全のために実施した事業や実施する上での課題、生物多様性地域戦略の策定検討状況などであり、全国の生物多様性地域戦略の内容を分析した「生物多様性地域戦略のレビュー」⁵⁾を参考に質問項目を設定した。

質問票はMSExcelで作成し、長野県庁自然保護課から県内全77市町村の自然保護担当課へ電子メールに添付して配布した。回答はファイルに直接入力して電子メールまたはファックスで返信する形とした。回収率は100%(77市町村)であった。アンケート内容と回答結果を表1に示す。

3 結果と考察

3.1 生物多様性の現状認識

各市町村内の生物多様性の現状に対しては、「豊かだと思う」（「とても豊か」と「まあまあ豊か」の合計）と回答した市町村が42(55%)、「普通だと思う」が27(35%)、「貧弱だと思う」（「やや貧弱」と「とても貧弱」の合計）が2(3%)であった。

10年前との比較では、「あまり変わらない」と回答した市町村が35(45%)でもっとも多く、「貧弱になった」（「少し貧弱」と「とても貧弱」の合計）が24(31%)、「豊かになった」（「とても豊か」と「少し豊か」の合計）は2(3%)であった。これらの結果から、生物多様性は豊かな方ではあるが劣化しつつあるとの認識をもつ市町村が一定程度存在していると考えられる。

また、生物多様性が地域資源として重視されていると思うかとの問いに対しては、38市町村(49%)が「そう思う」（「とてもそう思う」と「少しそう思う」の合計）と回答しているが、問1で生物多様性が「とても豊か」と答えた16市町村に限れば15

1 長野県環境保全研究所 自然環境部 〒381-0075 長野県長野市北郷2054-120

2 長野県 環境部 自然保護課 〒380-8570 長野県長野市大字南長野字幅下692-2

表1 長野県内77市町村(19市, 23町, 35村)に送付したアンケート内容および各項目の回答数

質問項目	選択肢	回答数			
		市	町	村	計 [※]
問1 貴市町村内の生物多様性の現状をどのように思われますか。(○は1つ)	とても豊かだと思う	4	6	6	16 (21%)
	まあまあ豊かだと思う	8	6	12	26 (34%)
	普通だと思う	7	8	12	27 (35%)
	やや貧弱だと思う	0	0	0	0 (0%)
	とても貧弱だと思う	0	1	1	2 (3%)
	わからない	0	2	4	6 (8%)
問2 10年前と比べて、貴市町村の生物多様性は豊かになったと思いますか。(○は1つ)	とても豊かになったと思う	0	0	0	0 (0%)
	少し豊かになったと思う	0	2	0	2 (3%)
	あまり変わらないと思う	11	9	15	35 (45%)
	少し貧弱になったと思う	5	6	10	21 (27%)
	とても貧弱になったと思う	0	2	1	3 (4%)
	わからない	3	4	9	16 (21%)
問3 貴市町村内では、生物多様性が地域の資源として重視されていると思いますか。(○は1つ)	とてもそう思う	5	5	4	14 (18%)
	少しそう思う	8	4	12	24 (31%)
	どちらでもない	1	8	8	17 (22%)
	あまりそう思わない	3	3	8	14 (18%)
	まったくそう思わない	0	2	0	2 (3%)
	わからない	2	1	3	6 (8%)
問4 貴市町村では、生物多様性を保全する上でとくに問題となっていることはどのようなことですか。	希少種の減少	8	4	10	22 (29%)
	外来種の増加	16	10	18	44 (57%)
	ニホンジカの食害	5	10	7	22 (29%)
	開発行為	4	2	3	9 (12%)
	農地の耕作放棄	5	7	12	24 (31%)
	森林の手入れ不足	7	6	13	26 (34%)
	気候変動	3	6	8	17 (22%)
	とくに思い当たらない	0	2	6	8 (10%)
	その他()	2	1	4	7 (9%)
問5 生物多様性の保全に関して住民から何か要望がありましたか。(○は1つ)	要望があった()	9	4	1	14 (18%)
	要望はない	9	19	34	62 (81%)
問6 生物多様性の保全のために、行政が重点的に取り組むべきことは何だと思いますか。	希少種の保護	12	10	15	37 (48%)
	外来種の駆除	16	14	19	49 (64%)
	ニホンジカ食害の防止	6	8	7	21 (27%)
	開発影響の低減	7	2	3	12 (16%)
	身近な自然環境の保全	9	11	15	35 (45%)
	農林地の利用促進	2	6	14	22 (29%)
	環境保全型農業の推進	5	3	3	11 (14%)
	気候変動対策	4	3	0	7 (9%)
	伝統文化の再評価	3	3	1	7 (9%)
	動植物等の調査・研究	9	3	4	16 (21%)
	観察会等イベントの開催	6	2	4	12 (16%)
	啓発用パンフレット等の作成	6	4	3	13 (17%)
	保全計画等の策定	4	4	1	9 (12%)
	保護活動団体への支援	6	3	4	13 (17%)
	とくにない	0	2	3	5 (6%)
	その他()	1	0	0	1 (1%)

(表1のつづき)

問7 生物多様性の保全のために貴市町村が実施した事業はありますか。	希少種の保護	7	3	7	17 (22%)
	外来種の駆除	14	11	12	37 (48%)
	ニホンジカ食害の防止	5	9	2	16 (21%)
	開発影響の低減	3	0	1	4 (5%)
	身近な自然環境の保全	4	3	5	12 (16%)
	農林地の利用促進	3	2	6	11 (14%)
	環境保全型農業の推進	2	2	3	7 (9%)
	気候変動対策	2	2	0	4 (5%)
	伝統文化の再評価	0	1	1	2 (3%)
	動植物等の調査・研究	8	2	2	12 (16%)
	観察会等イベントの開催	10	3	3	16 (21%)
	啓発用パンフレット等の作成	8	3	1	12 (16%)
	保全計画等の策定	3	1	0	4 (5%)
	保護活動団体への支援	7	3	2	12 (16%)
	とくにない	0	4	12	16 (21%)
その他 ()	0	1	1	2 (3%)	
問8 貴市町村が生物多様性を保全する上で優先的に解決すべき課題は何だと思いますか。	予算的な問題	10	10	14	34 (44%)
	人員不足	12	9	22	43 (56%)
	情報不足	4	7	13	24 (31%)
	役所内での認識不足	7	8	12	27 (35%)
	住民の理解不足	7	6	5	18 (23%)
	活動団体の人材不足	3	3	5	11 (14%)
	国や県の支援不足	7	1	4	12 (16%)
	隣接市町村との連携不足	5	0	1	6 (8%)
	企業や農家の協力	2	3	3	8 (10%)
	その他 ()	1	0	2	3 (4%)
問9 貴市町村では「生物多様性地域戦略」を策定する予定がありますか。(○は1つ)	策定済み	3	0	0	3 (4%)
	策定する予定はない	6	11	17	34 (44%)
	検討中	2	1	1	4 (5%)
	未検討	7	11	17	35 (45%)
	策定予定 (年頃)	1	0	0	1 (1%)
問10 生物多様性基本法では、市町村も生物多様性地域戦略の策定に務めるよう規定されていますが、貴市町村ではその必要性をどのように感じていますか。(○は1つ)	大いに必要である	3	1	0	4 (5%)
	まあ必要である	7	4	8	19 (25%)
	どちらでもない	8	15	20	43 (56%)
	あまり必要でない	1	2	7	10 (13%)
	まったく必要でない	0	1	0	1 (1%)
問11 生物多様性保全上の課題やご意見など自由に記入してください。					

※ () 内は全77市町村に対する割合を示す

市町村 (94%) が「そう思う」と答えた一方、問1で「まあまあ豊か」と答えた26市町村では15市町村 (58%), 「普通だと思う」と答えた27市町村では6市町村 (22%) のみが「そう思う」と答えており、生物多様性が豊かだと自認している市町村ほどそれが観光資源等として活用されている状況が推察される (図1)。

3.2 保全対策と課題

生物多様性の保全上とくに問題となっているこ

ととして、「外来種の増加」を回答した市町村が44 (57%) でもっとも多く、「森林の手入れ不足」、「農地の耕作放棄」、「希少種の減少」及び「ニホンジカの食害」が何れも30%前後で続いている。

生物多様性の保全に関して住民からの「要望があった」と回答した市町村は14 (18%) であったが、具体的な要望内容として8市町村が外来植物の駆除等外来種に関する要望を記載している。

生物多様性の保全のために行政が重点的に取り組むべきこととしては、「外来種の駆除」を回答した

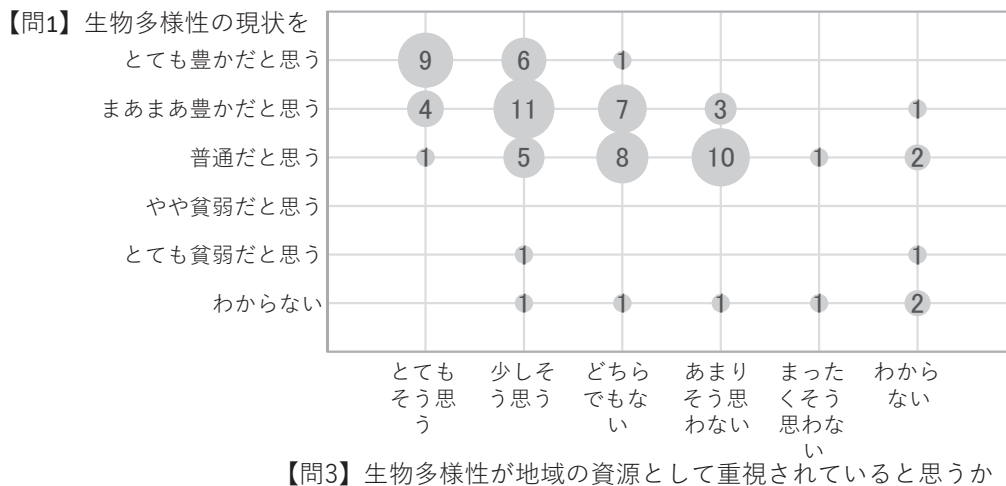


図1 生物多様性の現状認識と地域資源としての重視度の関係
○の中の数字は回答市町村数

市町村が 49 (64%) でもっとも多く、次いで「希少種の保護」が 37 (48%), 「身近な自然環境の保全」が 35 (45%) であった。

また、実際に実施した事業としては、「外来種の駆除」を回答した市町村が 37 (48%) でもっとも多く、次いで「希少種の保護」が 17 (22%), 「ニホンジカ食害の防止」と「観察会等イベントの開催」が 16 (21%) であった。アレチウリやセアカゴケグモ、オオクチバス等の外来種は、住民の生活圏にも広く侵入し、生態系被害だけでなく、人の身体や農林水産業等に対するさまざまな被害が想定され、マスコミでも報道されることから住民の関心も高く、市町村でも対応せざるを得ない状況にあるものと考えられる。

一方で、実際に実施した事業が「とくにない」と回答した市町村が 16 (21%) あり、内訳は市が 0, 町が 4 (町のうち 17%), 村が 12 (村のうち 34%) であり、規模の小さな市町村ほど事業が実施されていない現状が明らかとなった。

市町村が生物多様性を保全する上で優先的に解決すべき課題としては、「人員不足」を回答した市町村が 43 (56%) でもっとも多く、次いで「予算的な問題」が 34 (44%) であった。

3.3 地域戦略の策定検討状況

生物多様性地域戦略を策定済みの市町村は 3 (4%), 策定予定が 1 (1%) であり、これらはすべて市であった。検討中は市が 2, 町と村が各 1 の計 4 (5%) であり、多くの市町村で策定に向けた検討が進んでいない現状が明らかとなった。

生物多様性地域戦略の必要性については、「必要」(「大いに必要」と「まあ必要」の合計) と回答した市町村が 23 (30%) であった。内訳は、市が 10 (市のうち 53%), 町が 5 (町のうち 22%), 村が 8 (村のうち 23%) であった。「どちらでもない」は全体で 43 (56%), 「必要でない」(「あまり」と「まったく」の合計) が 11 (14%) であり、多くの市町村、とくに町と村において生物多様性地域戦略の必要性すらあまり認識されていない現状が明らかとなった。

4 おわりに

長野県内市町村を対象に生物多様性保全に関するアンケートを実施した結果、多くの市町村で生物多様性が豊かであると自認され、それらが地域資源として重視されているとする一方、保全を進める上での課題も明らかとなった。

市町村の認識としては、「外来種の駆除」や「希少種の保護」、「身近な自然環境の保全」など従来型の自然保護対策が主流となっているが、今後は、農林業や観光業、伝統文化など生物多様性を基盤として成り立つさまざまな分野との連携による保全についてもより推進していく必要があると考えられる。

また、外来種対策はすでに多くの市町村で実施されており、今後も重点的に取り組むべきと認識されているが、その他の対策についてはあまり実施されておらず、市町村の人員不足や予算的な問題が関わっていることが推察された。生物多様性地域戦略の必要性についても、とくに町村においてあまり認

識されていない現状が明らかとなった。問 11 の自由記述欄では、生物多様性保全は市町村単位でなく広域的に検討すべきとの意見も複数の市町村から挙げられており、規模の小さな市町村が多い長野県の生物多様性保全を進める上での大きな課題の 1 つと考えられる。今回得られた結果は県戦略の見直しの中で反映していきたい。

文 献

- 1) 長野県環境部自然保護課, 生物多様性ながの県戦略 (平成 24 年 2 月策定)
- 2) 環境省, 「生物多様性国家戦略 2010」平成 22 年 3 月 16 日閣議決定: <https://www.biodic.go.jp/biodiversity/about/initiatives4/index.html> (2019 年 12 月確認)
- 3) 環境省, 生物多様性地域戦略管理データベース: http://www.env.go.jp/nature/biodic_mat09.xlsm (2020 年 1 月確認)
- 4) 長野県, 平成 29 年度県政モニターアンケート調査結果報告書: https://www.pref.nagano.lg.jp/koho/kensei/koho/monitor/documents/171128_houkokusho3.pdf (2020 年 1 月確認)
- 5) 環境省自然環境局自然環境計画課生物多様性地球戦略企画室 (2017) 生物多様性地域戦略のレビュー

Recognition of the current status of biodiversity conservation in municipalities in Nagano Prefecture

Kenichiro HATANAKA¹, Hitoshi KUGA¹, Takeshi SUKA¹, Tamaki TAKEUCHI²

1 *Natural Environment Division, Nagano Environmental Conservation Research Institute, 2054-120 Kitago, Nagano 381-0075, Japan*

2 *Nature Conservation Division, Environment Department, Nagano Prefectural Government, 692-2 Habashita, Minami-Nagano, Nagano 380-8570, Japan*